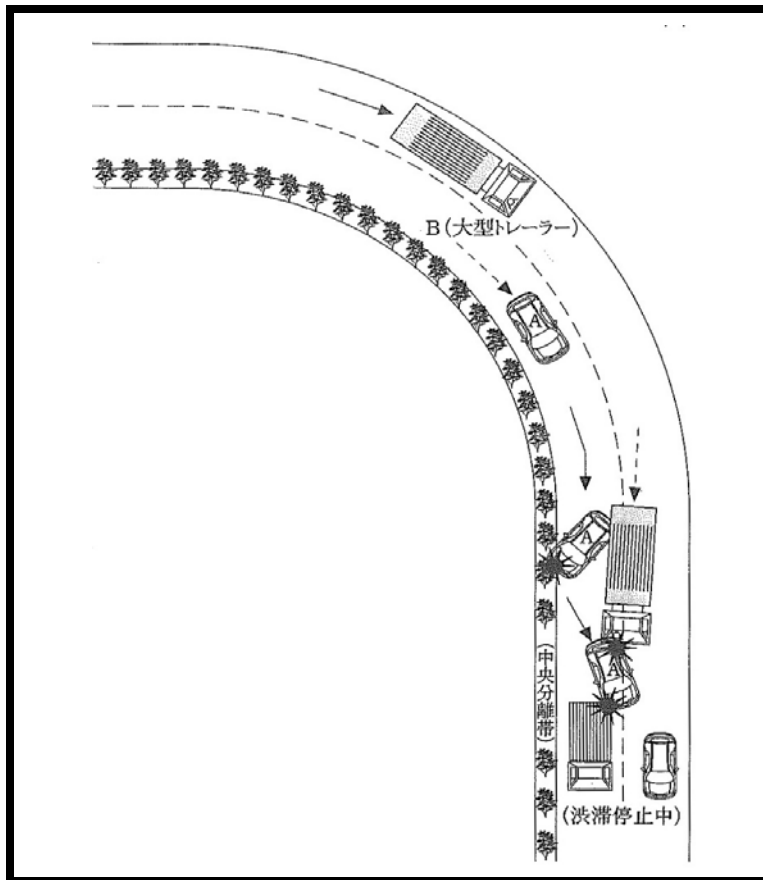


■事故の概況

自動車学校（全指連）参照



事故類型：追突
発生日時：夜間
当事者A：普通乗用車（年齢性
別不明）
当事者B：大型トレーラー
（〃）

■ 事故の概要

Aは片側2車線の国道（規制速度は時速50km）を時速約70kmで走行していました。前方の見通しがよくない右カーブを抜けたところで、渋滞のため先行車が停止しているのを発見し、慌てて急ブレーキを踏んだところ、A車は横滑りをはじめ中央分離帯に衝突し、さらに渋滞末尾のトラックに接触して停止しました。折からA車の後方をB車が時速約80kmで走行していましたが、前方で事故が発生しているのを発見し、急ブレーキ等回避措置をとりましたが間に合わず、A車の後部に激しく衝突し、A車は大破しました。

■ 事故から学ぶ

交通量が閑散だと、一見走りやすいと感じるかもしれませんが。特に夜間は、自車のライトの光に対向車や歩行者が気づいてくれるだろうとつい軽く判断し、速度を出しすぎてしまう傾向にあり、特に運転操作に慣れてきた時期にはその傾向が強いようです。

しかし、道路状況によっては夜間でも交通事故や工事などの影響により交通渋滞が発生することもありますし、夜間は見通しや見通せる範囲が狭くなり危険リスクが高まるので、速度を出していると渋滞など思いがけない事態が発生しても対処出来ません。また、速度に応じて衝突時の衝撃が大きくなり被害が増大します。法定速度を遵守するとともに、道路状況に応じた安全な速度で走行しましょう。